

俳句

みずた

# 水田のぶほ



宇部市・田布施町  
(1898～1963)

水田のぶほは、こよなく千代子夫人を愛した、“オシドリ俳人”であった。二冊の句集が、いずれも『二人静』と『二人静 第二』というタイトルで、夫婦の句集であったことから、それがわかる。ともに俳句づくりに励み、地域に根ざした多くの俳人を育て、山口県俳壇の輪を広げ、振興に尽力した。それだけではない、医者としても大きな功績を残し、地域医療の発展のために尽くした。医学から俳句へ、のぶほのそばにはいつも、大好きだった萩の花のように千代子夫人が寄りそっている。

(いいだ すすむ)

## 【主な著作】

句集『二人静』（共著、京鹿子社、昭和31年）

句集『二人静 第二』（共著、昭和39年）